

JAERA NEWS LETTER vol.187

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

ニュースレター 2024年11月号



新連載

自動車リサイクル業界を担うホープ(7)

名前: 富重 裕稀 (とみしげ ひろき) (21歳)

所属: 桂木産業株式会社

担当: 部品在庫管理

特技: 車やバイクの修理・カスタム

MBTI: 巨匠型 (わずか5%しか存在しない稀有な才能を持つ性格タイプで、論理的な思考力と行動力を兼ね備え、職人のような緻密さと技術力を持ち合わせています。)

— 仕事で誰にも負けない部分

スピーディーで美しい商品の梱包

— この業界の魅力を一言で

パーツの再利用や車の構造を知ることができる

— 将来の業界への期待

再利用パーツの流通が更に増えて地球環境が良くなること

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【新連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 ——— P.1

JAERA会員限定共同出荷事業 & 賛助会員アーネストのご紹介 — P.2

【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解くPart 6 ——— P.3

資源回収インセンティブ制度特設サイトのご案内 / JAERA会議報告 — P.4

第17回景況調査結果 — P.5

9月新車販売・使用済自動車発生台数 ——— P.6

鉄スクラップ最新情報 ——— P.7

行事予定・お知らせ / 編集後記 ——— P.8

巻頭言

広報部会

木村 香奈子

朝夕冷え込むようになり夏の猛暑が嘘の様な過ぎやすい日々が続いています。最近では四季ではなく、二季(夏と冬)と言われますが、数日前お客様である鋳金業者の社長さんから大きな栗を頂戴しました。

また、犬の散歩では道端に美しい彼岸花が綺麗に咲いているのを見かけると秋の気配を感じます。季節の移り変わりがある日本だからこそそのビジネスチャンスがあり、有難いと思います。四季があることによる日本のビジネスチャンスは、季節ごとのイベント用品・サービス、季節性のある飲食業、アパレル業界、自動車であれば、冬のシーズンのスタッドレスへの交換、オイル交換、バッテリー交換などがあります。季節ごとのニーズに合わせてビジネス展開を工夫することで、消費者にとってタイムリーで魅力的な提案をしたいです。

02

JAERA 会員限定共同出荷事業 & 賛助会員アーネストのご紹介

JAERAではHVバッテリーの共同出荷事業を行っています！

JAERA会員限定の「駆動用HVバッテリーの共同出荷事業」は、2018年度に開始され、今年で7年目を迎えることができました。これまで、多くの会員の皆様のご協力により、安定的な事業運営を継続できておりますが、「どういう事業なのか?」、「回収したバッテリーはその後どうなっているか?」についてご紹介いたします!

本事業では、プリウスやアクアなどに使用されるニッケル水素バッテリーの回収を行っています。解体事業者が単独で回収・出荷を行う場合、十分な数量を集めることは難しいですが、JAERA会員の皆様が力を合わせて共同で回収・出荷を行うことで、JAERAの規模のメリットを活かし、大量のバッテリーを効率よく集めることが可能となります。この「共同出荷」によってバッテリーの買取価格も、より高く買い取ってもらえることができ、多くのJAERA会員企業にとって大きなメリットとなります。

バッテリーの再生と回収は、JAERA賛助会員の株式会社アーネスト様が行い、回収したバッテリーのセルはリビルドバッテリーのコア部品として生まれ変わります。また、迅速かつ確実な回収で、会員の皆様にとって利便性の高いサービスとなっています。

共同出荷事業は環境保護にも貢献する取り組みの一つでもあります。リサイクル資源としてのバッテリーの回収を促進することで、資源の有効利用と廃棄物の削減にも繋がっています。今後もこの事業を継続していきますので、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

■事業の詳細については、以下のリンク先をご確認ください

<https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

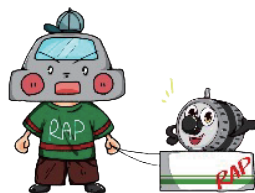
※JAERA 会員専用ページ ユーザー名とパスワードが必要です。

【JAERA 賛助会員 株式会社アーネストのご紹介】

株式会社アーネストはJAERAの賛助会員として、この共同出荷事業において、バッテリー回収と再生(リビルト)の役割を担っています。本社は埼玉県吉川市で、バッテリー以外にも駆動系など幅広いパーツのリビルトや優良部品の製造を行っています。

弊社のリビルト製品は、お手に取って見ていただいたお客様から、よく「新品かと思った。新品同様ですね。」という嬉しいお言葉を頂戴いたします。我々の製品づくりは、別に定められた「リビルト製品規格」に沿って、各工程のプロセスを愚直なまでに守り抜くことから始まります。我々は品質レベル向上のバックボーンとなるのが技術であり、技術力への拘りは決して手放してはいけないものであると考えており、その象徴が、業界に先駆けて販売を開始したリビルトハイブリッドバッテリーだと思っています。

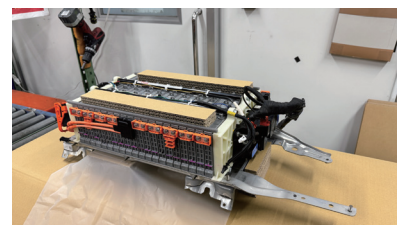
今後もこの「共同出荷事業」を通じて、会員企業の皆様とともに、より良いリサイクルの仕組みを構築してまいりますので、ぜひ引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



■アーネスト公式キャラクター
左: リびくん 右: オルタくん



回収したバッテリーの写真



リビルトしたバッテリーの写真



株式会社アーネスト本社



リビルト作業の写真

03 ▶【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解く（Part6）

テーマは「樹脂の輸送」

資源回収インセンティブ制度（本制度）について正しく理解をする特集の第6弾！

前回は樹脂の一次解体と二次解体について解説しました。今回のテーマは「樹脂の輸送」です。そこにある課題や改善方法などについて考察していきます。

【輸送について】

樹脂を回収拠点または再生材業者まで運ぶ際、効率化を図ることがコスト削減の重要なポイントとなります。輸送効率の向上により、燃料費や人件費の削減、更には環境負荷の軽減も期待できます。皆様ご存じのとおり、特に樹脂部品は軽量ながら体積が大きく、しばしば「空気を運んでいるようだ」と言われるほど輸送効率が低いのが現状です。また、輸送車両の回転率が低下することで輸送コストが増加し、さらなる効率低下を招いてしまいます。この課題を解決するには、効率的な輸送手段を模索することが必要です。



【破碎機（イメージ）】



【破碎後の樹脂】

【改善案】

1. 樹脂破碎機の導入

輸送前に樹脂を破碎して体積を減らすことで、輸送効率を大幅に向上させることが可能です。破碎することで、同じ輸送でも多くの樹脂を運搬でき、コスト削減が期待できます。

2. “ついで便”を活用

樹脂をそのままの形で既存の輸送ルートに積み込む方法です。他の製品や資材を運ぶトラックの空きスペースを利用することで、効率的な輸送が可能です。新たな輸送便を確保する必要がなく、輸送コストの軽減を図ることができます。

具体的には、使用済自動車（ELV）引取時や、廃車ガラの引渡時に、既に稼働しているトラックに併載して樹脂を運搬するなど効率の良い活用方法が考えられます。



【適切な保管方法】

輸送の際にもう一つ重要なのは「適切な保管方法」です。樹脂は金属類と異なり屋外保管でも品質に影響はありませんが、大量の雨水の混入が輸送の際に障壁となったり、保管中に何らかの形で異物が混入してしまい再生材の品質に影響を及ぼしてしまいます。そのため、回収した樹脂の適切な保管が求められます。

例えば、バンパーはバンドなどで固定し、雨水が溜まらないようにバンパー裏側を下に向けて保管しておく、内装の樹脂部品はフレコンなどに詰めてカバーを掛けておくなどの保管方法が考えられます。これによって輸送時の荷揚げ・荷下ろしの時間短縮も図ることができます。

今後、コンソーシアムを組んで資源回収インセンティブ制度に参画する場合、効率的な輸送パターンと適切な保管方法を明確にし、最も効率的かつ経済的な方法を見出すことが求められます。

次号に続く!!

04

～自動車リサイクル促進センターより～
資源回収インセンティブ制度特設サイトのご案内

資源回収インセンティブ制度に関する説明動画を公開中！

現在、自動車リサイクルの高度化や再生材利用の促進による資源循環の発展を目的として、国と自工会を中心に資源回収インセンティブ制度の制度設計が進められています。

資源回収インセンティブ制度とは、解体工程や破砕工程において、破砕残さ（ASR）になる前に樹脂やガラスを回収した場合、ASRの減量分に相当する再資源化費用（ASRリサイクル料金）を、資源を回収した事業者へ経済的インセンティブとして付与する制度です。本制度に関する説明動画を自動車リサイクル促進センターが管理する特設サイトのコンテンツページにて公開中です。

特設サイトでは、今後も樹脂回収やガラス回収の実証事業等の参考情報や制度に関するQ&Aについても公開予定です。特設サイトコンテンツページの閲覧には事前の参加登録が必要となります。登録用の二次元コードから登録申請を行うことができますので、是非とも登録のうえサイトをチェックしてみてください

特設サイトURL ▶

<https://www.jarc.or.jp/shigenkaisyu/login/>

登録用 二次元コード



特設サイト TOPページ



05

JAERA 会議報告

中国・四国ブロック会議（対面） —9月25日（水）岡山県岡山市—

皆が同じ土俵での競争を望む

ブロック内での会員増強について、特に空白県の解消に関する議論が行われた。また、外国人事業所の増加してきていることに對し情報共有が行われ、一同危機感を募らせるとともに国籍に関わらず同じ土俵で競争が出来るフェアな状況を望む声が多く挙がった。

九州ブロック会議（対面）—9月21日（土）福岡県福岡市—

会員増強に焦点

九州ブロック内での会員の減少を受け、会員増加の施策や考え方について整理や意見交換が行われた。「同業者間でも激しい競争に晒されている現状ではあるが、地域を超えた情報交換が可能であることがJAERA会員の一つの大きなメリットである」と今後も継続検討を行うとした。

TOPIC | 東北ブロック地域団体合同交流会が行われました

東北地域の同業社の情報交換や多くの方々と交流の輪を広げて親睦を図ることを目的とした東北ブロック地域団体合同交流会が9月27日（金）岩手県盛岡市にて開催され、東北各県から33名もの方々が集まりました。

JAERA本部から石井代表理事が出席され、今後の業界について、JAERAへの期待や業界団体としての役割についてなど皆さん熱く語られていました。



石井代表を囲んで

TOPIC | 金森商会 創業35周年・社長交代式典を開催

岐阜県にある有限会社金森商会の創業35周年記念・社長交代式典が、10月5日（土）に岐阜市で開催されました。

創業から35年、金森幸元会長から金森久高社長にバトンが渡され、会社の新たな門出を大勢の方が祝福していました。会長は「どの業界でも世代交代は大きな課題ですが、今回、次の世代に引き継げたことに意味がある」とのこと。式典では、岐阜県をはじめ中部北陸ブロックや解体業界に対して多大な貢献をしてきた金森会長の功績が称えられ、業界関係者が多数出席するなか、盛大に執り行われました。



式典の様子

06

第17回 景況調査報告 2024年7～9月期

集計・分析：長崎大学 経済学部 教授 木村真実

改善傾向ややブレーキか 次期見通しも厳しく

【調査要領】

- ①調査期間：2024年9月17日（火）～9月30日（月） ②対象企業：日本自動車リサイクル機構会員企業
 ③調査の方法：FAX・Webの送受信による自計記入を求めた。 ④回答企業数：450社のうち132社（29.3%）から回答を得た（うち、有効回答数130）
 ⑤平均従業員数：役員を含む正規従業員数 44.7人（前回36.9人）
 派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 11.7人（前回13.8人）
 ※DI値（DI：Diffusion Index）「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの ※：本文中の「△」はマイナスを意味する。

今回の調査結果についての詳細や解説などは、以下の「報告書版」からご覧ください。

報告書版はこちら ▶

<https://www.elv.or.jp/media/20/20241022-keikyo17houkoku.pdf>

以下の図では第1回景況調査（2020年7-9月期）から第17回景況調査（2024年7-9月期）までの、前年同期比のDI値の推移を示す。前回の第16回調査（2024年4-6月期）では経常利益は2022年7-9月期（△65.2）を底に改善傾向であったが、今回調査ではブレーキがかかった。前回調査と比べて、業況判断は10.3ポイント悪化、売上高は13.2ポイント悪化、経常利益は5.0ポイント悪化、資金繰りは12.6ポイント悪化であった。

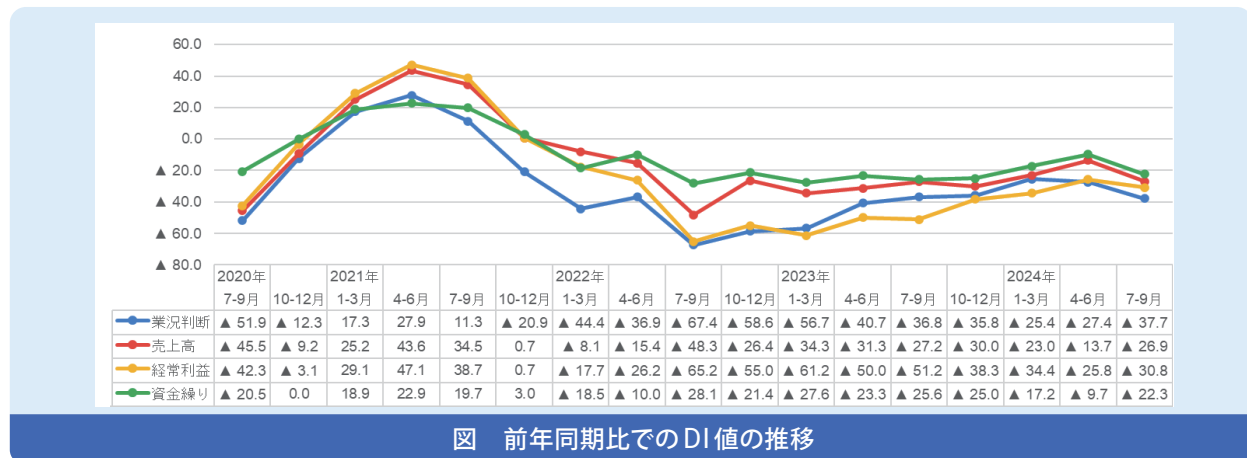


図 前年同期比でのDI値の推移

以下の表では、2024年7～9月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りの動向を、前期比、前年同期比、次期見通しで示す。

表 業況判断、売上高、経常利益、運転資金調達の動向

	前期比(2024年 4～6月と比べて)				前年同期比(2023年 7～9月と比べて)				次期見通し(2023年 10～12月と比べて)			
業況判断	好転 6.2%	横ばい 46.9%	悪化 46.9%	DI値 -40.8 (-29.8)	好転 8.5%	横ばい 45.4%	悪化 46.2%	DI値 -37.7 (-27.4)	好転 5.4%	横ばい 48.5%	悪化 46.2%	DI値 -40.8 (-29.8)
売上高	好転 10.0%	横ばい 50.8%	悪化 39.2%	DI値 -29.2 (-15.3)	好転 12.3%	横ばい 48.5%	悪化 39.2%	DI値 -26.9 (-13.7)	好転 7.7%	横ばい 50.8%	悪化 41.5%	DI値 -33.8 (-15.3)
経常利益	好転 7.7%	横ばい 46.2%	悪化 46.2%	DI値 -38.5 (-25.8)	好転 14.6%	横ばい 40.0%	悪化 45.4%	DI値 -30.8 (-25.8)	好転 6.9%	横ばい 46.9%	悪化 46.2%	DI値 -39.2 (-25.8)
資金繰り	容易になった 1.5%	変わらない 79.2%	厳しくなった 19.2%	DI値 -17.7 (-9.7)	容易になった 1.5%	変わらない 74.6%	厳しくなった 23.8%	DI値 -22.3 (-9.7)	容易になった 1.5%	変わらない 73.1%	厳しくなった 25.4%	DI値 -23.8 (-13.7)

注：DI値欄のカッコ内の値は前回調査時のDI値です。

■事務局より■

次回2024年10～12月期の調査につきましては、2024年12月を予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

07

2024年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 9月出荷状況と今期累計

上段：9月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
23	4	32	0	0	41	0	1	2
61	75	337	3	1	309	2	6	9

SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A～C	合計
0	0	0	1	0	0	0	8	89
3	5	6	4	5	0	0	92	857

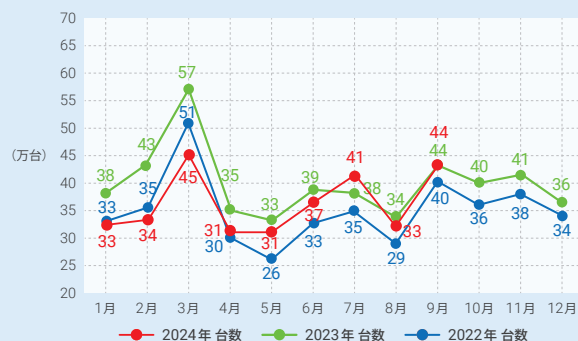
2023年度の結果はこちら ▶

<https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

08

9月新車販売・使用済自動車発生台数

2024年9月度 新車販売台数 438,733台（前年同月比100.3%）



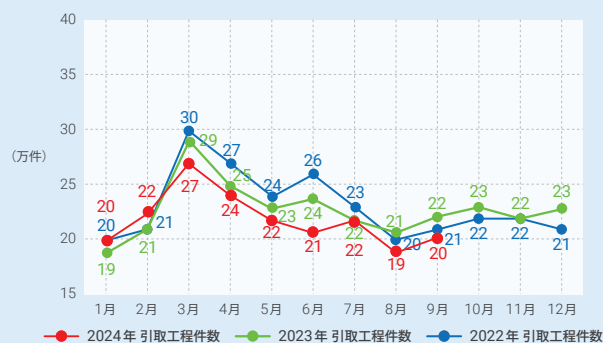
新車販売の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

過去の新車販売台数推移

年累計	台 数	前年比 (%)
2024年 (9月まで)	3,299,869	91.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2010年	4,598,615	88.5

2024年9月度 使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況



使用済自動車引取件数の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

引取件数

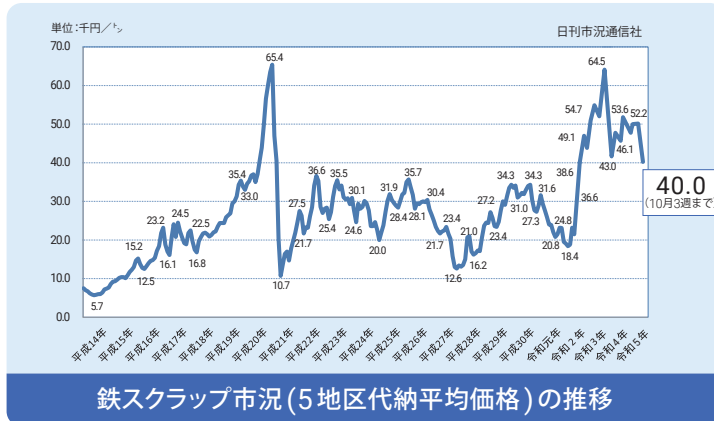
9月	201,197件（前年同月比89.5%）
フロン回収工程	
9月	179,503件（前年同月比89.1%）
解体工程	
9月	205,923件（前年同月比89.2%）

09

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

10月第4週（22日）の鉄スクラップ動向



10月22日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	40,500 ～ 41,500	様子見
	南関東	40,500 ～ 41,500	様子見
	浜値	41,000 ～ 42,500	様子見
名古屋		40,000 ～ 41,500	様子見
関西	大阪	39,500 ～ 41,000	様子見
	姫路	41,500 ～ 43,000	様子見

国内市場 需要家筋慎重姿勢で様子見商状

国内市場の鉄スクラップ市況は、10月10日から九州・山口を除く各市場で500～3,000円どころ値上がりし、底入れ反発する展開となった。市中では需要家筋の追加値上げを予想する見方も多かったが、需要家筋は慎重な姿勢を維持しており、上伸後は様子見商状の推移を続けている。

市中間屋筋は、7月中旬から9月下旬までの下げ相場の際に、手持ち在庫の出荷を急いだことから、現時点の在庫水準が低い。先高期待感もあることから出荷意欲が低く、鉄スクラップの荷動きが伸びていない。また、輸出価格の続伸を受けて、湾岸商社・シッパー筋が引き合いを強めたため、市中スクラップの流通が電炉向け、船送り向けと分散する状況となっている。

しかし、電炉鋼生産の減産基調が続いていることから、国内電炉の鉄スクラップ消費量が減少している。また、鋼材需要の不振で鋼材価格が一部値下がりしていることなどもあって、電炉筋は概ね鉄スクラップ購入価格の追加値上げには慎重な姿勢を崩していない。

関東 電炉筋、入荷バラつきも慎重姿勢

関東市況は10月10日からの反発後、様子見横ばいの推移を続けている。関東電炉生産は減産基調が続いており、鋼材需要の不振を受けて、前年同月の生産実績を下回る状況が継続している。また、鋼材価格が一部値下がりしていることもあり、鉄スクラップ購入価格の追加値上げには消極的な姿勢だ。関東地区のH2炉前実勢価格は40,500～41,500円中心。H2浜値は41,000～41,500円中心、高値42,000～42,500円見当。

東海 堅調様子見 メーカーは値上げに慎重

名古屋地区の市況は、堅調様子見気配にある。10月10日から、域内では約3か月半ぶりの値上げに転じたことや、関東及び中部鉄源の入札が好値で落札されたこともあり、市中間屋筋の多くには先高期待から出荷を控えて再度の値上げを待つ動きが広がった。ただ、製品需要の停滞から地区電炉の多くで生産が伸び悩んでおり、在庫にも余力が残るため値上げには慎重になっている。H2炉前実勢価格は40,000～41,500円中心。

大阪 気配は強含みも値上がりにはブレーキ

大阪地区の鉄スクラップ市況の気配は強含みだ。ただ荷止めや炉休があり、電炉需要が上向いてくる環境にはない。炉休以外の電炉筋の中には在庫余力を抱えることも加わり、地区単独での実勢押し上げにブレーキがかかった状況となっている。なお湾岸筋によっては、HSとH2に対して電炉買値を上回る引き合いを見せている。H2炉前実勢価格は、大阪地区が39,500～41,000円中心。姫路地区が41,500～43,000円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月22日午後時点のもの）

10

お知らせ

JAMA方式一括作動処理ツール JAERAが窓口で販売中!!

前号でもご案内のとおり、新仕様にアップデートされたJAMA方式一括作動処理ツールをJAERAが窓口となって販売しております!

特に **JAERA会員の皆様には特別価格**にて販売しており、現在非常に多くの注文をいただいている状況です。

この新仕様の一括作動ツールは、現場のニーズに応え、耐久性、耐水性、耐油性がさらに向上しております。ぜひこの機会に購入を検討してみたいかでしょうか。

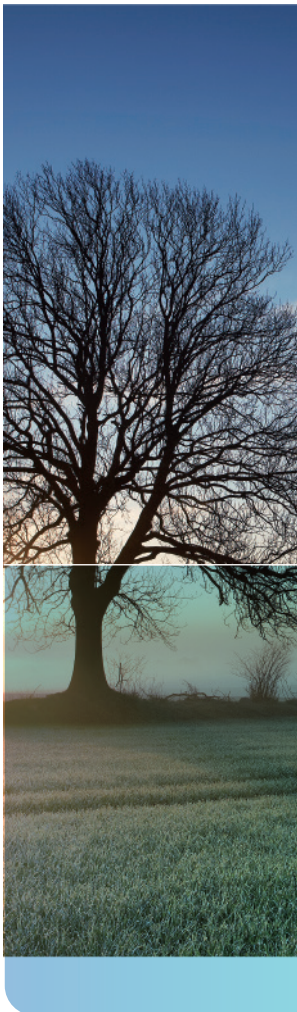


新仕様のJAMA方式一括作動処理ツール

詳細 & お申込みはこちら ▶

<https://www.elv.or.jp/media/5/20241001-202410sadotool.pdf>

編集後記



最近友人や知人に久しぶりに連絡や会話をする時に「元気?」と聞くことが多くなりました。若い頃にはあまり言わなかったような気がします。軽い挨拶のようですが、その一言に相手の健康や心の状態を気にかけている自分を感じます。

常に元気でいる人は少ないでしょう。心と身体は密接に繋がっていて、体調を崩すと気持ちが落ち込み、心が疲れると身体も動かなくなることがあります。心と身体のバランスを保つことが日々の生活、毎日の仕事では非常に大切です。また、毎日元気に過ごすことは一朝一夕で得られるものではなく、日々の積み重ねから得られるものであると思います。健康オタクになる必要はありませんが、日々ストレスの軽減に努め、体調を整え、リフレッシュした心で仕事に打ち込めば自ずと良い結果が出るのではないのでしょうか。

折しも厚生労働省は、今まで義務化されていなかった従業員50人未満の小規模事業所に対しても、働く人の「ストレスチェック」を義務付ける方針を決めたようです。大切な従業員の体の健康はもちろん、心の健康もしっかり守ってやれなければこの人手不足の時代、経営者としては失格の烙印を押されてしまいますね。

広報部会長 田村 幸男

11 月の主な行事予定

- 1日(金) | 自動車リサイクル士新規講習会試験 沖縄会場
- 6日(水) | 第8回広報部会 (WEB)
- 8日(金) | JTP・JAERA共催 トラック解体作業見学会・意見交換会
- 12日(火) | J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
- 14日(木) | 第59回産構審・中環審合同会議
- 21日(木) | J-FAR (資源回収インセンティブ実装事業) 定例会 (WEB)
- 27日(水) | J-FAR (ガラスリサイクル) 第3回委員会 (対面&WEB)
- 29日(金) | 未来部会主催 解体現場見学会 in エコアール ※JAERA会員限定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

